

経営会議の内容

件 名	大和市一般廃棄物処理基本計画の改定について
所 管 部	環境農政部
日時・場所	平成27年11月20日（金）9：20～10：25 政策会議室
出 席 者	市長、副市長、教育長、病院長、市長室長、政策部長、総務部長、市民経済部長、環境農政部長、健康福祉部長、こども部長、文化スポーツ部長、街づくり計画部長、都市施設部長、病院事務局長、消防長、教育部長、議会事務局長、環境総務課長
提 出 理 由	大和市一般廃棄物処理基本計画の改定に向け、環境審議会への諮問を行うにあたり、その内容について了承を得るため
会議経過	【主な意見等】 ・焼却灰の全量資源化を進めつつも、緊急時のリスク回避を検討していくとのことだが、どのような事態を想定しているのか。 （所管部）焼却灰の資源化は県外の業者に処理を委託することになるが、災害時等によって対応できなくなるケースなどを想定している。 ・ごみの資源化を推進していく中で、新たな資源化品目は具体的にあるのか。 （所管部）これまで焼却処分していた剪定枝を資源化し、ごみの減量化を図っていきたい。 ・ごみの減量化を図るうえでは、「食品ロス」に関わる課題に対応していく必要があると思うが、どのように捉えているか。 （所管部）高齢化や単身世帯の増加が影響している側面があると考えており、適切なごみの仕分の方法などを周知することなどによって、対応していきたい。 ・焼却灰の全量資源化について、委託先の業者が確実に資源化をしているかは、行政としてしっかりチェックしていくことが重要であると思う。ところで、全量資源化の目途は立っているのか。 （所管部）全量資源化の目途は立っている。 ・資源化でプラスチックごみなどが減る中で、焼却炉内の温度低下などの問題はないのか。 （所管部）プラスチックごみが減少しても、本市では適切に焼却炉を運転できているので問題ない。 ・高齢化への対応として、重量のある資源の戸別収集を検討していくとのことだがリサイクルステーションは貴重なコミュニティ形成の場でもあり、管理を行っている自治会との調整は問題ないか。 （所管部）全ての資源を戸別収集にしようとするものではないが、コミュニティ形成に関することについても配慮していきたい。 ・高齢化が著しくてもごみの減量化が図られている自治体はあるのか。 （所管部）他市のごみ減量化について、高齢化の進行の影響を踏まえた分析を行ったことはない。ただ、ごみ収集の有料化や、戸別収集を進めた自治体は減量化が進んでいる。 ・ごみについて、出し方の検討も必要だが、ペットボトルのキャップの回収など、捨てるという発想だけでなく、他に使える用途に関しても考えていくことが必要ではないか。 ・ごみは生活していれば毎日発生するもので、重要な問題。環境農政部だけではなく、庁内で連携した取り組みが必要。 《次ページに続く》

	・環境管理センターの使用期間について、平成 40 年度までの延伸を目指していくとのことだが、現段階で計画に方向性を記載できるくらい、施設等の状態が良好なことを確認しているのか。 （所管部）状態が良好なことは確認している。平成 28 年度には、検査業者に確認して、延命化に必要な事項を精密に確認していきたい。 ・ごみの有料化を図る中で減量化を進めてきたわけだが、その費用が適正であるかは、適正化方針も踏まえ、しっかりと考えていかなければいけない課題である。
会議結果	案のとおり、進めていく。